

「若松のアカエゾマツ人工林」を紹介します

網走東部森づくりセンター 森林整備課 矢萩利雄

はじめに

アカエゾマツは北海道の東・北部に多く生育し、直径 150cm、樹高 40m に達する雄大な樹形の常緑針葉樹です。昭和 41 年にはクロエゾマツとあわせ「北海道の木」に指定されています。

当センター管理区内の「若松のアカエゾマツ」は昭和初期に植えられたもので、現在、大きな個体では直径 60cm、樹高 30m 以上と、北海道のアカエゾマツ人工林を代表するにふさわしい深さと奥行きを感じさせる森に育っています（写真）。

昭和 43 年には北海道百年記念事業による「北海道の美林」に、また 54 年には北見市緑化推進条例による「北見市の保存樹林」に指定され、市民の憩いの場として利用されています。



写真 人工林の姿（撮影：平成21年10月）

人工林の沿革

(1) 位置

北見市若松 道有林網走東部管理区 74 林班 57 小班

(2) 面積

10.40ha

(3) 地拵え

昭和 6 年秋 かりはば 刈幅 1.5m, おきはば 措幅 1.2m の条刈り

(4) 植付け

昭和 7 年 5 月 2,000 本 /ha 植栽(名寄産 6 年生苗木)

(5) 下刈り

昭和 7 年～昭和 15 年 計 12 回実施

(6) つる切り除伐

昭和 11 年～昭和 39 年 計 8 回実施

(7) 枝打ち

昭和 32 年 全木 2m まで裾払い

昭和 34, 35 年 全木 4m まで枝打ち

昭和 40, 41 年 全木 8m まで枝打ち

(8) 間伐

昭和 32 年～平成 9 年 計 7 回実施

(間伐材積 (7 回合計) : 259m³/ha)

(9) 受光伐, 被害伐

平成 19 年 被害伐 (被害木材積 : 1m³/ha)

平成 22 年 受光伐, 被害伐

(受光伐材積 : 38m³/ha, 被害木材積 : 46m³/ha)

人工林の現況 (平成 22 年 3 月現在)

林齢 : 78 年

平均直径 : 39cm, 平均樹高 : 29m

ha 当たり本数 : 241 本 /ha, ha 当たり材積 : 381m³/ha

伐採木の試験

6 回目の間伐時 (林齢 51 年), 伐採木の一部を材質試験等のため林産試験場に提供しています。当時、試験結果として次のように報告されました (林産試月報 419 号 1986 年 12 月)。それは『若松のアカエゾマツ人工林材の比重や強度的性能は天然林材と同程度である。若齢期に丁寧な枝打ちが行われ適正に本数管理されてきたことにより、将来、得られる大径材からは狂いの少ない高品質な心去り角材が採材され、付加価値が大いに高まるであろう』というものでした。

平成 19 年 (林齢 76 年) には被害木の整理をしましたが、伐採木の一部を試験用として林産試験場、北見木材 (株) へ提供しています。ピアノ響板や合板材としての適性等の評価が待たれるところです。

今後の施業について

天然林のアカエゾマツの寿命は 250 年以上と言われています。若松のアカエゾマツ人工林については、旺盛な生育現況から、林齢 150 年を目安に、下層に天然更新しているハリギリやイタヤカエデ等の広葉樹を活かし、虫害等に注意を払いつつ、アカエゾマツ主体の針広混交林へ誘導することを施業目標にしています。